

○観点別学習状況の評価について

- ・「知識・技能」：言語材料の使用の「正確さ」を評価
→言語材料を正確に理解していること、言語材料を正確に活用できること
- ・「思考・判断・表現」：目的や場面、状況に合わせた内容の「適切さ」を評価
→言葉を使う目的や場面、状況があり、それらに応じて適切に語彙や表現（理解していること、できること）を適切に使用する力。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」：粘り強く取り組む態度と学習を調整する態度（メタ認知）を評価
→自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうか。「思考・判断・表現」と一体的に評価をしていく。

○「指導と評価の年間計画」の作成について

- ・「英語コミュニケーションⅠ」「論理・表現Ⅰ」それぞれの科目において、以下の5領域（論理・表現Ⅰは3領域）ごと観点別に評価規準を作成し、指導と評価を行い、集積された観点別評価を総括して評定をつける。年間を通して5領域3観点を見とれるように、各単元等で評価を行う領域や観点を焦点化する。

→①単元の目標作成→②単元の評価規準作成→③指導と評価の年間計画作成→④授業→⑤観点ごとに総括

英語コミュニケーションⅠ（3単位）

	Listening	Reading	Speaking(I)	Speaking(P)	Writing	観点別評価
知識・技能						→
思・判・表						→
主体～態度						→

- ・「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の4技能5領域について評価
- ・年間を通して Lesson 1～Lesson10(例 LANDMARK 啓林館)で、4技能5領域の15マスが埋まる

論理・表現Ⅰ（2単位）

	Listening	Reading	Speaking(I)	Speaking(P)	Writing	観点別評価
知識・技能						→
思・判・表						→
主体～態度						→

- ・主に、「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」について評価
- ・年間を通して、Lesson1～Lesson12(例 Vision Quest 啓林館)で、2技能3領域の9マスが埋まる

参考文献

- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター.2021.『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校 外国語】』東京：東洋館出版社.